

## 令和2年度文化事業についての評価（まとめ）

	令和2年度	(参考令和元年度)
文化施設事業数	126 件	235 件
文化施設事業参加者数	65,227 人	177,003 人
その他文化事業数	5 件	7 件
その他事業参加者数	1,783 人	65,707 人

※主にイベントやプログラムを事業数として計上。

#### ■ 事業評価シートから

令和2年度事業については、各文化施設実施事業のうち3事業ずつを評価対象にした。

実施者（施設等）の自己評価の多くは新型コロナウイルス感染症に言及するもので、事業実施の現場では相当の困難が伴ったことがうかがえる。（後述）

一部事業ではオンライン開催をしているが、オンラインでの実施により事業効果にどのような影響があるかなどは十分に分析できていないため、令和3年度事業も含めて、オンライン開催のあり方について検討していく必要がある。

#### ■ 新型コロナウイルス感染症の影響について

施設の臨時休館やイベント開催時の制限などが続き、多くの事業が開催できなかった。開催できた事業も収容率の制限などにより当初見込んでいた参加者数を得られることは少なかったが、一方で、予想以上の参加者数を得ることができた事業もあった。令和2年度事業の成果については、事業の質に加えて、開催時期と感染症流行時期の兼ね合いや、文化芸術分野や事業形態による感染症リスクの大小など、要因が複雑であり、分析・評価は容易ではない。

#### ■ 事業のオンライン化について

新型コロナウイルス感染症の流行をうけて、市及び文化施設の主催事業についても、オンライン化を推進している。

施設整備面（ハード）においては令和2年度になら100年会館（大ホール・中ホール）のギガネットインフラ整備工事を行い、施設利用者が通信設備の使用することが可能となった。令和3年度にはならまちセンターのインターネット接続に関する整備を進めていく予定である。

事業面（ソフト）においては、令和2年度から令和3年度にかけて、いくつかの文化施設でYoutubeチャンネルを開設し、展示解説や演奏動画などを配信している。また、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」では、EAT&ART TARO「動く石」という美術プログラムにおいて、特設サイトを制作し、オンライン上で「石」の展示を楽しんでいただけるようにコンテンツ化した。